

危機を理解する

■デマや噂に惑わされないで……!

各国のリーダーは、このコロナ禍を戦争と捉えています。国民も有名コメディアン志村けんさんが亡くなられたことで、ようやくこのウィルスの本当の恐ろしさに気づいた感じがします。一部の既存薬に治療効果があるとされていますが、心から安心するためにはワクチンの完成が必要だと思っています。

そのうえで、このウィルスがもたらすもう一つの脅威をあげると、それは社会のヒステリー化です。特に、ヒステリー化によるパニックは恐怖です。あります。デマの流布や心無い「魔女狩り」により引き起こされるヒステリーはなんとか回避しなければなりません。

■不安解消のために

市は、市民の皆さんの不安を少しでも解消しようと、日頃の注意喚起はもちろんのこと、できうる取り組みを順次行っています。たとえば、マスクや消毒液のような入手困難となっている感染防止対策用品のうち、準備できるものはこれを準備し、提供したいと考えています。

その一つが消毒液の無料配布です。幸いなことに、市内には除菌水を生成する装置「ビーコロナ」を製造・販売する企業があります。これまでも市は食中毒予防のために給食調理場で同装置を使用していました。この度、市はビーコロナ3

台を新たに購入し、市内3公民館で生成した除菌水の一般配布を始めました。

■発想の転換が必要

今回のコロナ禍は、従来の経済危機とは全く異なります。これまでの経済危機は、消費を促すことで克服してきました。しかしながら、今回の危機は需要の落ち込みによるものではないために単なる景気刺激策では何ともなりません。

つまり、これまでは交流人口の拡大という言葉にみられるように、ヒトとモノの流れを作ることでお金の循環を生み出してきましたが、今回は全く違い、ウィルスの拡散を防ぐためにヒトの流れを抑え込まなければならないのです。

IMFの専門家も述べていますが、私たちはこのコロナ禍を2つの段階に分けて考えなければなりません。第1段階は「感染症が猛威を振るっている時期」、第2段階は「ワクチンや治療薬が登場し感染が制御できるようになった時期」です。今は第1段階です。すべきことは感染拡大の防止です。この段階では経済活動は大幅に制限されるのです。

ポイントは第2段階です。この時期は回復期でもあります。経済対策が効果を発揮する時期です。この時に注意しなければならぬのは、第1段階の時にどのような対策がとられたかです。前述の専門家は、「回復期のペースが成功と呼べ

るものになるかを決定づけるのは、危機の最中である第1段階での取り組みにある」と述べています。具体的には、①雇用が守られているか、②事業者が貸貨物件から立ち退かないでいられるか、③会社破産しないですむか、④産業のネットワークが維持されているか、の4つの視点です。

今回の危機は持久戦です。自助努力だけでは乗り切れない人たちもいます。前にも述べたように、飲食店や小売店は市民にとっての社会資源の一つです。仮に、コロナ禍が終息し「さあ、これからだ」となった時に、プレーヤーがいなくなっていたらプレーはできないのです。必要なのはスピード感あるピンポイント支援です。従来ならば、行政による自営業者への支援は難しいものがありました。しかしながら、今回のコロナ禍では発想を転換させなければならないと私は考えています。



にかほ市長
市川雄次